

第28回 日本胆膵病態・生理研究会

The 28th Annual Meeting of
Japan Society for Bilio-Pancreatic Physiology

プログラム・抄録集

会 期 ◆ 2011年 6月18日(土)

会 場 ◆ 福岡大学病院
福大メディカルホール
〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

会 長 ◆ 山下 裕一
福岡大学医学部 外科学講座消化器外科 教授

事務局 ◆ 福岡大学医学部 外科学講座消化器外科
〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
TEL: 092-801-1011(内3425) FAX: 092-863-9759

第28回 日本胆膵病態・生理研究会

The 28th Annual Meeting of
Japan Society for Billo-Pancreatic Physiology

プログラム・抄録集

会 長◆山下 裕一

会 期◆2011年 6月18日(土)

会 場◆福岡大学病院 福大メディカルホール

〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1
TEL : 092-801-1011 (内線 4592)

第28回 日本胆膵病態・生理研究会 事務局

〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1
福岡大学医学部外科学講座消化器外科
担当：佐々木 隆光
TEL : 092-801-1011 (内線 3425) FAX : 092-863-9759
E-mail : tsasaki@fukuoka-u.ac.jp

日本胆膵病態・生理研究会 事務局

〒920-8641 金沢市宝町 13-1
金沢大学 消化器・乳腺・移植再生外科内
TEL : 076-265-2362 FAX : 076-234-4260
E-mail : enakata@staff.kanazawa-u.ac.jp

ご 挨拶

第28回日本胆膵病態・生理研究会 当番会長
福岡大学医学部消化器外科 山下 裕一

この度の東日本大震災により被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

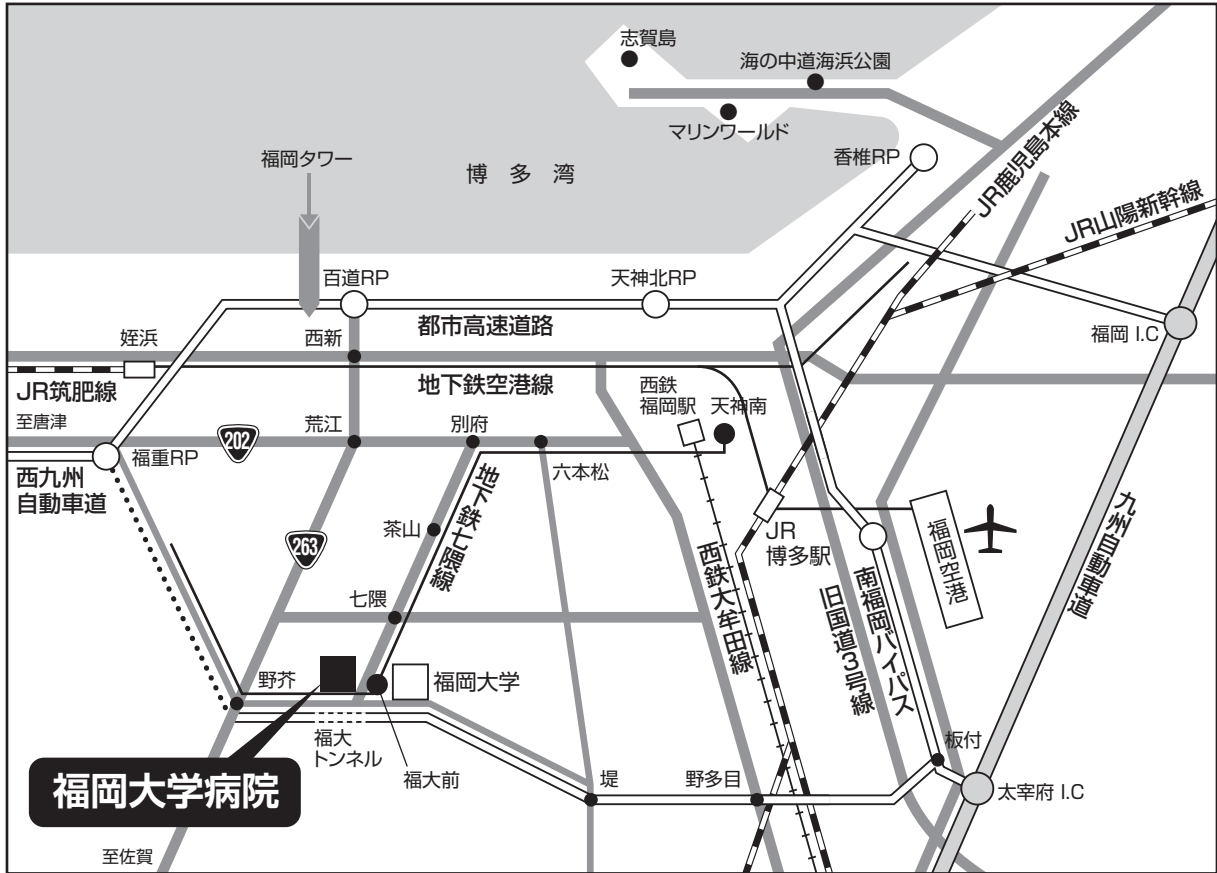
平成23年6月18日(土)に第28回日本胆膵病態・生理研究会を福岡市にあります福岡大学病院 福大メディカルホールにおきまして開催させていただくことになりました。歴史と伝統のある本研究会を主催させていただきますことを大変光栄に存じております。

消化器病学は、形態学と生理機能学の両輪で成り立っています。本研究会の名称は第27回の研究会より日本胆膵生理機能研究会から日本胆膵病態・生理研究会へと名称変更がなされました。これにより本研究会の研究の幅を広めると共にわかりやすくなり、多くの研究発表を期待できるものと思われまます。とりわけ胆道と膵臓は専門性が高い領域ですので、その診療にあたっては生理機能や病態を深く理解しておく必要があります。これらの臓器の検査の中には専門性の高いものがあり、どこの病院でもできるというわけではありません。このような胆膵領域でありますので、この領域の病態、生理、機能の研究を推し進めることでこの分野の診療や研究に携わっておられる先生の発展の場となりますように、そしてこの領域に興味を持つ若い医師たちに研究や診療の面白さや深さに触れてもらう機会となることも本研究会の使命であると思ひます。

今回の要望演題としまして、①病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術、②胆膵疾患の検査、治療、手術における安全な患者管理方法、③胆膵の病態と生理に関する研究・話題の3つのテーマについて演題を募集いたしました。①は本研究会の継続的なテーマといえます。②は専門性が高い胆膵領域の検査や治療などにおける安全性に着目した内容の研究などを募集しました。③はこの領域の演題を広く応募できるタイトルを選びました。その結果、22題の演題の応募をいただきました。教育講演としまして愛知県がんセンター中央病院・研究所の消化器内科部長 山雄 健次先生に「超音波内視鏡」についてのご講演をいただく予定です。その他、ランチョンセミナーを1つ企画致しています。

会場となります福大メディカルホールは、本年1月1日に開院しました福岡大学病院の新棟に附属する立派な研究発表ホールであり、地下鉄の“福大前駅”に直結しています。本研究会は、福大メディカルホールにおきまして全国レベルの研究会や学会としては初めて開催されるものであり、“柿落とし”となる記念すべき研究会となります。当日は多くの先生方のご参集を期待致しますと共に活発なご討論を展開していただき、今後の診療や研究に役立つ研究会となりますように祈念してあります。

会場周辺図



会場までのアクセス

- 地下鉄 …… 地下鉄七隈線「福大前駅」下車 ➡ 2番出口 (福岡大学病院方面) より徒歩1分
- バス
 - 天神から (所要時間 約30分)
 - …… 「天神警固神社前三越前」から14番、114番のバスに乗車 ➡ 「福大病院バス停」下車
 - …… 「天神協和ビル前^⑩乗り場」あるいは「天神福ビル前^⑪乗り場」から福大病院経由の140番のバスに乗車 ➡ 「福大病院バス停」下車
 - 博多駅から (所要時間 約40分)
 - …… 「博多駅前バス停^④」あるいは「福岡交通センター1階^⑤」乗り場から福大病院経由の114番のバスに乗車 ➡ 「福大病院バス停」下車
- 福岡空港から
 - 地下鉄を利用：地下鉄空港線に乗り、「天神」で下車 (約11分) ➡ 徒歩 (約7分)
 - ➡ 地下鉄七隈線「天神南駅」より地下鉄に乗り、「福大前駅」下車 (約16分)
 - ➡ 徒歩1分
 - バスを利用：JR「博多駅」まで歩く (約5分) ➡ 福大病院経由の114番のバスに乗車 ➡ 「福大病院バス停」下車 (約40分)
 - タクシーを利用：所要時間 約45分

会場案内図



参加者へのお知らせ

【参加費について】

受付にて、参加費として当日3,000円を納入の上、参加証をお受け取り下さい。

参加受付は、6月18日(土)午前8時30分より、福大メディカルホールにて行います。

【演者の先生方へのお願い】

1. 発表時間6分、討論4分です。発表形式はコンピュータープレゼンテーションのみとさせていただきます。また時間内に収まるようご配慮下さい。
2. 発表データについて
 - 発表データは予め6月16日(木)正午までに第28回日本胆膵病態・生理研究会事務局 (tsasaki@fukuoka-u.ac.jp)宛にE-mailでお送り下さい。
 - 当日、講演会場内PCオペレーター席にて発表データをご確認頂きますようお願いいたします。また不測の事態に備えて、必ず会場にもバックアップデータをUSBメモリーでご持参下さい。
 - 発表データはWindows版PowerPointで作成いただきますよう、お願い致します。会場のPCにはPowerPoint2003をご用意致しますので、上位バージョンのPowerPointで作成される場合は、2003互換形式で保存していただき正常に動作するか予めご確認ください。また発表に動画を使用される場合やMacでデータを作成される場合は、ご自身のPCを持参されるようお願い致します。
 - 持参されるUSBメモリーには、当日発表されるデータ以外は入れないようにして下さい。また、発表データがコンピュータウイルスに感染していないことを、事前にウイルス対策ソフト等でご確認下さい。
 - PCオペレーター席では、データの修正・変更はできません。予めご了承下さい。
3. 演者の先生方は、発表の10分前までに次演者席にて待機して下さい。

【司会・座長およびコメンテーターの先生方へのお願い】

- 司会・座長およびコメンテーターの方は、セッション開始15分前までに、次司会席・次座長席もしくは次コメンテーター席にご着席下さい。
- セッションの進行は司会・座長の先生方にお任せ致しますので、時間厳守でお願い致します。

常任世話人会

日 時：平成23年6月17日（金）18:00～

会 場：ホテルニューオータニ博多3階 ローズルーム

世話人会

日 時：平成23年6月18日（土）13:00～13:30

会 場：福岡大学病院多目的室（福大メディカルホール横）

次回（第29回日本胆膵病態・生理研究会）予定

[会長] 岡崎 和一

関西医科大学内科学第三講座 主任教授

[会期] 2012年（平成24年）6月23日（土）

[会場] メルパルク京都 ※変更の場合あり

京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13

TEL：075-352-7444（代）

第28回日本胆膵・病態生理研究会
プログラム

受付開始：午前8時15分

8:45～8:50	開会の辞	
8:50～9:30	要望演題 主題I-1 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術	座長 五十嵐良典 田妻 進 コメンテーター 明石 隆吉
9:30～10:00	要望演題 主題I-2 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術	座長 岡崎 和一 阪上 順一 コメンテーター 乾 和郎
10:00～10:40	要望演題 主題I-3 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術	座長 安田 秀喜 大屋 敏秀 コメンテーター 松村 敏信
10:40～11:10	要望演題 主題I-4 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術	座長 萱原 正都 村上 義昭 コメンテーター 杉山 政則
11:10～12:00	特別講演 「膵胆道がん診療における EUS-FNA と EUS ガイド下治療」	講師 山雄 健次 司会 中村 光男
12:00～13:00	ランチョンセミナー 「肝内胆管癌に対する外科的治療成績」	講師 武富 紹信 司会 太田 哲生
13:00～13:30	世話人会	
13:30～14:20	要望演題 主題I-5 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術	座長 袴田 健一 木下 壽文 コメンテーター 佐田 尚宏
14:20～15:00	要望演題 主題II 胆膵疾患の検査、治療、手術における安全な患者 管理法	座長 海野 倫明 山口 幸二 コメンテーター 伊佐地秀司
15:00～15:10	Coffee Break	
15:10～16:00	要望演題 主題III 胆膵と生理に関する研究・話題	座長 池川 繁男 丹藤 雄介 コメンテーター 芦澤 信雄
16:00～16:05	閉会の辞	

プログラム

8:45~8:50 開会の辞

当番会長 山下 裕一 福岡大学医学部外科学講座消化器外科

8:50~9:30 要望演題

主題I-1 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術

座長：五十嵐良典 東邦大学医療センター大森病院消化器内科

田妻 進 広島大学病院総合内科・総合診療内科

コメンテーター：明石 隆吉 熊本地域医療センター・ヘルスケアセンター

1. 術後胆管損傷に対して治療に難渋したが良好な tube stent 留置ができた2例

久留米大学外科学

○吉富 宗宏、川原 隆一、塩田 浩二、北里 雄平、勝本 充、御鍵 和弘、堀内 彦之、奥田 康司、木下 壽文、白水 和雄

2. EPBD が有効であった乳頭括約筋機能不全の一例

1) 中国労災病院消化器内科、2) 広島大学総合診療科

○吉福 良公¹⁾、大屋 敏秀¹⁾、中村 有希¹⁾、藤野 初江¹⁾、北村 正輔¹⁾、岡信 秀治¹⁾、久賀 祥男¹⁾、守屋 尚¹⁾、田妻 進²⁾

3. 膵管ステント留置術による膵管内圧減圧術は PAR-2 活性を抑制する

熊本地域医療センター・ヘルスケアセンター

○明石 隆吉

4. 内視鏡的乳頭切開 (EST) 後の長期成績と後期合併症の危険因子

杏林大学医学部外科

○鈴木 裕、中里 徹矢、横山 政明、阿部 展次、柳田 修、正木 忠彦、森 俊幸、杉山 政則

9:30~10:00 要望演題

主題I-2 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術

座長：岡崎 和一 関西医科大学内科学第三講座

阪上 順一 京都府立医科大学消化器内科

コメンテーター：乾 和郎 藤田保健衛生大学坂分種報徳會病院内科

5. クローン病に併発した若年性慢性膵炎の1例

1) 東邦大学医療センター大森病院消化器内科、2) 社会保険中央総合病院消化器内科

○三村 享彦¹⁾、五十嵐 良典¹⁾、伊藤 謙¹⁾、原 精一¹⁾、鎌田 至¹⁾、岸本 有為¹⁾、住野 泰清¹⁾、河口 貴昭²⁾、齋藤 聡²⁾、畑田 康政²⁾

6. 糖尿病の悪化を契機に発症した無痛性自己免疫性膵炎の1例

1) 弘前大学医学部内分泌代謝内科学講座、2) 弘前大学医学部保健学科病因病態検査学

○近澤 真司¹⁾、二川原 健¹⁾、松橋 有紀¹⁾、山形 聡¹⁾、丹藤 雄介¹⁾、中村 光男²⁾、須田 俊宏¹⁾

7. 自己免疫性膵炎 (LSP) における制御性 T 細胞の役割と IgG4 産生機序

関西医科大学内科学第三講座

○内田 一茂、楠田 武生、小藪 雅紀、三好 秀明、福井 由理、池浦 司、島谷 昌明、松下 光伸、高岡 亮、西尾 彰功、岡崎 和一

主題I-3 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術

座長：安田 秀喜 帝京大学ちば総合医療センター外科

大屋 敏秀 労働者健康福祉機構中国労災病院消化器科

コメンテーター：松村 敏信 浦添総合病院外科

8. 非代償期慢性膵炎患者の長期補充療法後の安静時エネルギー代謝

1) 弘前大学医学部内分泌代謝内科、2) 弘前大学医学部保健学科病因病態検査学

○柳町 幸¹⁾、丹藤 雄介¹⁾、佐藤 江里¹⁾、近澤 真司¹⁾、松本 敦史¹⁾、今 昭人¹⁾、松橋 有紀¹⁾、中村 光男²⁾

9. 呼吸膵外分泌機能検査法 —膵全摘例での検討—

1) 八戸市立市民病院内分泌糖尿病科、2) 弘前大学医学部内分泌代謝内科、

3) 弘前大学医学部保健学科病因病態検査学

○松本 敦史¹⁾²⁾、丹藤 雄介²⁾、柳町 幸²⁾、松橋 有紀²⁾、佐藤 江里²⁾、近澤 真司²⁾、今 昭人²⁾、中村 光男³⁾

10. 非手術的膵石治療後における再発率の検討

藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院消化器内科

○山本 智支、芳野 純治、乾 和郎、若林 貴夫、三好 広尚、小林 隆、服部 信幸、小坂 俊仁、友松 雄一郎、成田 賢生、鳥井 淑敬、森 智子

11. 急性膵炎における RVS (real-time virtual sonography) —FNA による細菌学的検査

京都府立医科大学消化器内科

○阪上 順一、保田 宏明、十亀 義生、内藤 裕二、片岡 慶正、吉川 敏一

主題I-4 病態生理を配慮した胆膵疾患の検査、治療、手術

座長：萱原 正都 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター外科

村上 義昭 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻病態制御医科学講座外科学

コメンテーター：杉山 政則 杏林大学外科教室

12. 閉塞性黄疸、急性膵炎を併発した胆道拡張症の1例

1) 金沢大学附属病院消化器・乳腺・移植外科、2) 小児外科

○酒井 清祥¹⁾、宮本 正俊²⁾、寺川 裕史¹⁾、岡本 浩一¹⁾、古河 浩之¹⁾、木下 淳¹⁾、牧野 勇¹⁾、中村 慶史¹⁾、林 泰寛¹⁾、尾山 勝信¹⁾、井口 雅史¹⁾、中川原 寿俊¹⁾、藤田 秀人¹⁾、田島 秀浩¹⁾、伊藤 博¹⁾、高村 博之¹⁾、二宮 致¹⁾、北川 裕久¹⁾、伏田 幸夫¹⁾、谷 卓¹⁾、藤村 隆¹⁾、太田 哲生¹⁾

13. 偶然発見された1.5cmの非機能性膵内分泌癌の1例

産業医科大学医学部第一外科学

○矢吹 慶、竹内 雅大、中本 充洋、井上 譲、皆川 紀剛、日暮 愛一郎、山口 幸二

14. 内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST) により一時消失した石灰乳胆汁が再発した一例

福岡大学医学部外科学講座消化器外科

○新屋 智志、佐々木 隆光、加藤 大祐、松岡 信秀、山下 裕一

「膵胆道がん診療における EUS-FNA と EUS ガイド下治療」

講師：山雄 健次 愛知県がんセンター中央病院消化器内科部長

司会：中村 光男 弘前大学医学部保健学科

要 望 演 題

主題I-1

病態生理を配慮した胆膵疾患の 検査、治療、手術

座 長：五十嵐良典 東邦大学医療センター大森病院消化器内科
田妻 進 広島大学病院総合内科・総合診療内科

コメンテーター：明石 隆吉 熊本地域医療センター・ヘルスケアセンター

術後胆管損傷に対して治療に難渋したが良好な tube stent 留置ができた2例

久留米大学外科学

○吉富 宗宏、川原 隆一、塩田 浩二、北里 雄平、勝本 充、御鍵 和弘、
堀内 彦之、奥田 康司、木下 壽文、白水 和雄

経皮的、内視鏡的胆道ドレナージを併用し、良好なドレナージができた2例を経験したので報告する。

【症例1】 77歳、女性。2000年2月、肝細胞癌に対して肝中央2区域切除術を施行した。2009年9月、再発肝細胞癌に対して開腹 RFA を施行した。術後33日目に腹腔内膿瘍（胆汁瘻）の診断にて PTAD 施行した。ドレナージにより膿瘍腔は縮小した。焼灼に伴う胆管損傷および胆管狭窄を左肝管に認めた。経皮ルートからの総胆管および左肝管へのチュービングは角度的に困難であったため、ERBD を左肝管に留置した。経過中、重症以上の胆管炎を繰り返したため経皮ルートから外瘻管理を行う必要が生じた。ERBD チューブをガイドに経皮ルートから総胆管および左肝管へのチュービングを行った。ERBD を抜去し経皮チューブにより現在ステントとして留置し、外瘻併用で管理している。

【症例2】 49歳、男性。S 状結腸癌による転移性肝癌に対して肝左3区域切除施行した。術後、胆管損傷部の後枝胆管より胆汁瘻を認めた。手術時のドレーンでドレナージは良好であった。難治性であり、tube stent による内瘻化を検討した。経皮ルートの cavity から胆管内へチューブを誘導するのは、手術時のドレーンルートを利用していることから角度的にも非常に困難であった。続いて内視鏡的胆道ドレナージを行ったが、胆管炎に対して ERBD を繰り返し、本人もこれ以上の内視鏡処置を受けるのを拒んだ。経皮ルートからの内瘻化を再度目指すこととした。内視鏡ルートからガイドワイヤーの硬い方（反対）を先端にしたガイドで cavity へのチュービングに成功した。内視鏡ルートからのチューブにより胆管損傷部 hole の拡張がえられたため困難ではあったが経皮ルートからの胆管へのチュービングが可能となった。

【まとめ】 経皮、内視鏡の両ルートから行うことで良好なドレナージが可能となった。

EPBD が有効であった乳頭括約筋機能不全の一例

1) 中国労災病院 消化器内科

2) 広島大学総合診療科

○吉福 良公¹⁾、大屋 敏秀¹⁾、中村 有希¹⁾、藤野 初江¹⁾、北村 正輔¹⁾、岡信 秀治¹⁾、
久賀 祥男¹⁾、守屋 尚¹⁾、田妻 進²⁾

症例は、68歳、男性、H22年5月16日心窩部痛を主訴に近医受診し、肝機能検査異常を指摘され当科紹介入院となった。入院時の血液検査所見は、AST/ALT 225/569IU/L, ALP/r-GTP 564/518IU/L, CRP 3.81mg/dl, WBC 7470/ul と肝逸脱酵素・胆道系酵素の上昇を認めた。HBsAg(-)HCV(-)免疫グロブリン：正常範囲、ANA 陰性、AMA 陰性であり、腹部US, CTにおいても結石や腫瘍などの所見を認めなかった。新たな薬剤の服用なく、アルコール、健康食品は摂取していない。肝機能は第6病日には、ほぼ正常化し退院した。約2カ月後、同様の症状、肝機能異常が出現するも保存的加療にて速やかに改善した。しかしながら、退院3日後、三たび、肝機能異常を伴う心窩部痛出現し、入院となった。血液所見は、AST/ALT 198/264IU/L, ALP/r-GTP 557/299IU/L, CRP 3.35mg/dl, WBC 8450/ul と前回、前々回と同様の所見であった。改善後、ERCPを施行したが、総胆管結石、有意な胆管狭窄、拡張など器質的な変化を認めなかった。乳頭括約筋機能不全(SOD)を疑い、十分なインフォームドコンセントを行った後、EPBD(8mm, 5atm., 30sec.)を行った。その後、8カ月の経過観察を行ったが、症状の出現や肝機能異常を認めていない。今回我々は、EPBDが有効であったSODの一例を経験したので報告する。

協賛企業一覧

アステラス製薬株式会社

エーザイ株式会社

株式会社大塚製薬工場

小野薬品工業株式会社

オリンパスメディカルシステムズ株式会社

化学及血清療法研究所

科研製薬株式会社

コヴィディエンジャパン株式会社

大鵬薬品工業株式会社

第一三共製薬株式会社

中外製薬株式会社

(五十音順)

第28回日本胆膵病態・生理研究会 プログラム・抄録集

発行者：山下 裕一
福岡大学医学部消化器外科

事務局：福岡大学医学部外科学講座消化器外科
〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
担当：佐々木 隆光
TEL:092-801-1011(内線3425) FAX:092-863-9759
E-mail:tsasaki@fukuoka-u.ac.jp

出版： (株)セカンド 学術集会専門出版社
株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025